

■ハザードマップについて

ハザードマップは、水害や地震・火山災害などの自然災害時に被害の恐れがある範囲や避難地域・避難経路や避難場所などを表示した地図（災害・危険箇所等の分布図）です。近年、災害対策の一環として多くの地方公共団体で作製されています。とりわけ、東海あるいは東南海地震発生の危険性が高まり、昨年度は県内外で水害や中越地震による甚大な被害が生じるなか、その有効性や活用に一層注目が集まっています。

■展示内容と作品について



会場の様子

9月1日の「防災の日」に合わせ、県内及び日本の代表的な地域のハザードマップを展示し、地図の有効性や地図から見る災害対策等を紹介しました。また本展は、当館が平成7年7月7日に移転新設された10周年記念展示としても開催されました。なお、開催にあたっては、全国の市町村から多くの資料を提供いただき、花園大学名誉教授伊藤安男先生及び岐阜県河川課・防災政策課のご協力をいただきました。

展示では、県内外の地方公共団体が作製した洪水・土砂災害・地震・火山災害のハ

ザードマップのほか、岐阜県の取り組みの現状やハザードマップの活用事例なども紹介しました。また、江戸時代や明治時代の水害等を記録した古地図や、ハザードマップ作製の基礎資料となる国土地理院等が作製した各種の主題図等（土地分類図、土地条件図、活断層図等）も展示し、地形と災害との関係についての紹介もしました。

■展示資料の紹介

「木曾川水系長良川（岐阜県管理区間）
浸水想定区域図」

2002（平成14）年岐阜県
岐阜・美濃建設事務所作製
岐阜県河川課提供

浸水想定区域図は、2001（平成13）年に改正された水防法に基づき、河川管理者（国や都道府県）が、洪水氾濫時に想定される浸水状況（範囲と深さ）を示したものです。市町村は本図に基づいてハザードマップの作製にあたります。



「岐阜県東海地震
等被害想定調査
地震動・液状化
予測分布図」

2003（平成15）年
7月作製／岐阜県防
災政策課

本図は東海地震と東南海地震の複合型東海地震を想定して県が作製したハザードマップです。予測される震度と、それによってもたらされる地盤の液状化の程度を大まかに示す指標（PL値）が示されています。

